

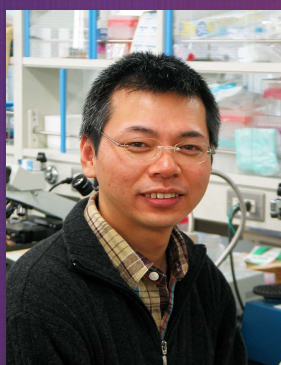
胚の体外操作を必要としない ゲノム編集動物作製法：i-GONAD

我々は、胚を体外に取り出さずにゲノム編集動物を作製可能な「i-GONAD法」の開発に成功した。本手法では、受精卵を有する妊娠メス卵管へのCRISPR関連試薬の注入、続く卵管全体への*in vivo*電気穿孔を行う。処置後はそのまま妊娠を継続させるため、胚移植用の偽妊娠動物の準備を要しない。従来法に付随する一連の高度で煩雑な工程をスキップできるため、熟練した技術や装置を持たない研究者でも遺伝子改変動物の作製が可能である。



東海大学 基礎医学系
分子生命科学 准教授
大塚 正人 先生

第13回 実験動物センターセミナー
リサーチコアセンタージョイントセミナー
日時 2019年1月21日 17:00～
場所 M&Dタワー21階 セミナー室
連絡先 実験動物センター 平手良和（内線5783）
免疫疾患分野 安達貴弘（内線4591）



実験動物センター
講師 平手良和

TARGATTノックイン技術を用いた トランスジェニックマウス作製法

TARGATTノックインは、ΦC31インテグラーゼのattP-attB組換え作用により特定のゲノム領域に目的遺伝子を単一コピーで挿入できる画期的な技術である。マウスのH11はROSA26と同様に全身性の遺伝子発現を誘導することができる遺伝子座で、本法によりH11遺伝子座に遺伝子導入することで安定的に導入遺伝子を発現するトランスジェニック（TG）システムを作製することができる。本セミナーでは実験動物センターにおけるTARGATT法によるTG作製の取り組みについてご紹介する。